

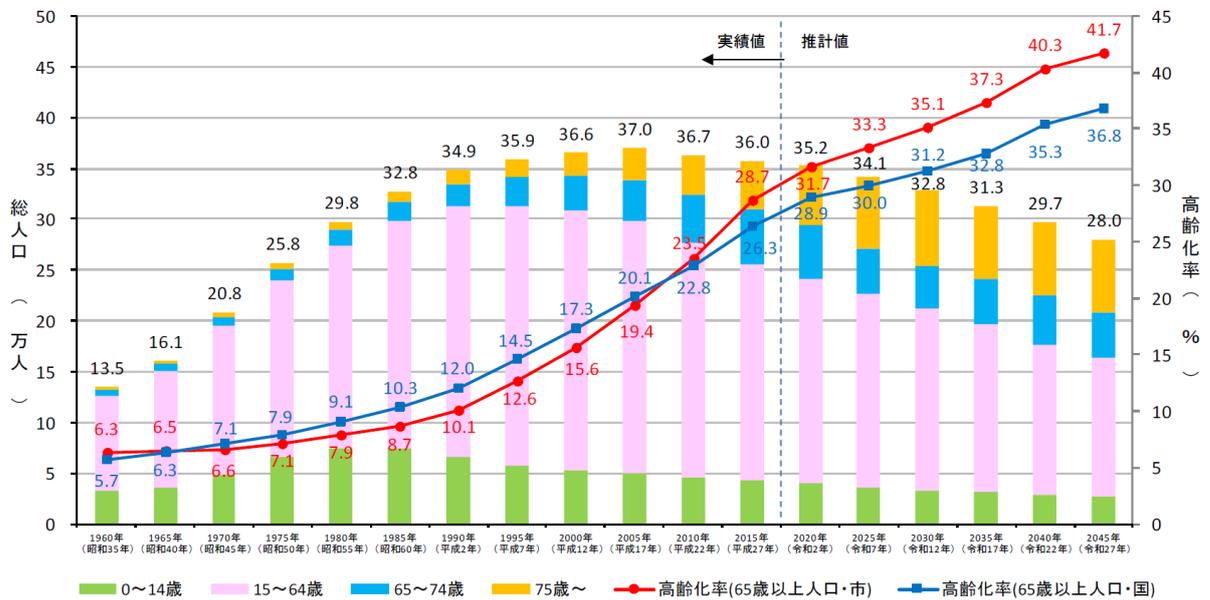


1 奈良市の概況

1.1 人口

1) 総人口の推移

- 奈良市の人口はすでに減少傾向にあり、2045年には約28万人となる見込みです。
- 0～14歳及び15～64歳の人口が一樣に減少傾向であり、少子高齢化が今後さらに進行する見込みです。
- 奈良市の高齢化率は2015年時点で28.7%と全国より高く、2045年には4割超となる見込みです。



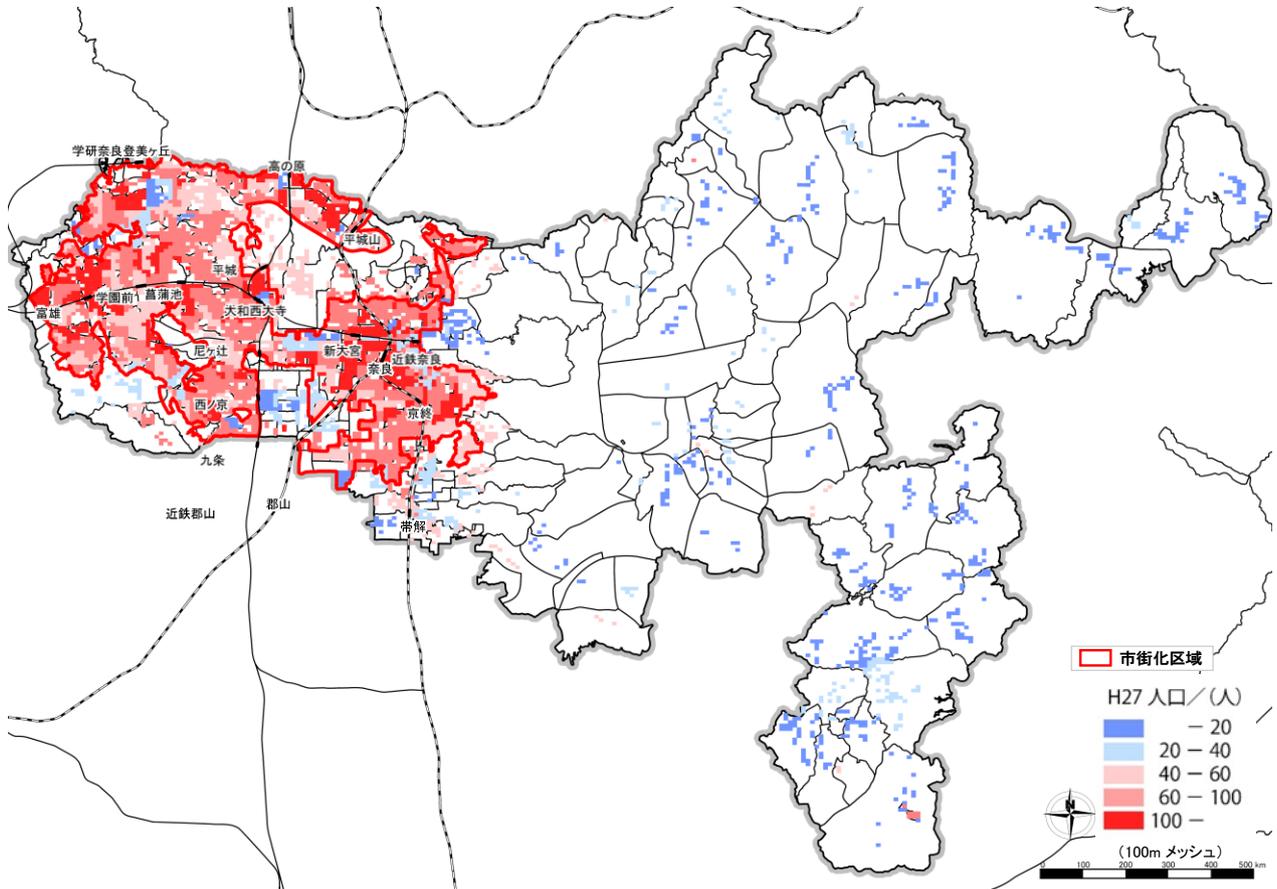
(資料) 2015年(平成27年)までは国勢調査。2020年(令和2年)以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月時点推計・出生中位、死亡中位)」

資料: 奈良市第5次総合計画(策定中)

総人口の推移

2) 人口分布

- 人口は、西北部・中部の特に鉄道駅周辺に集中しています。



人口分布(H27)

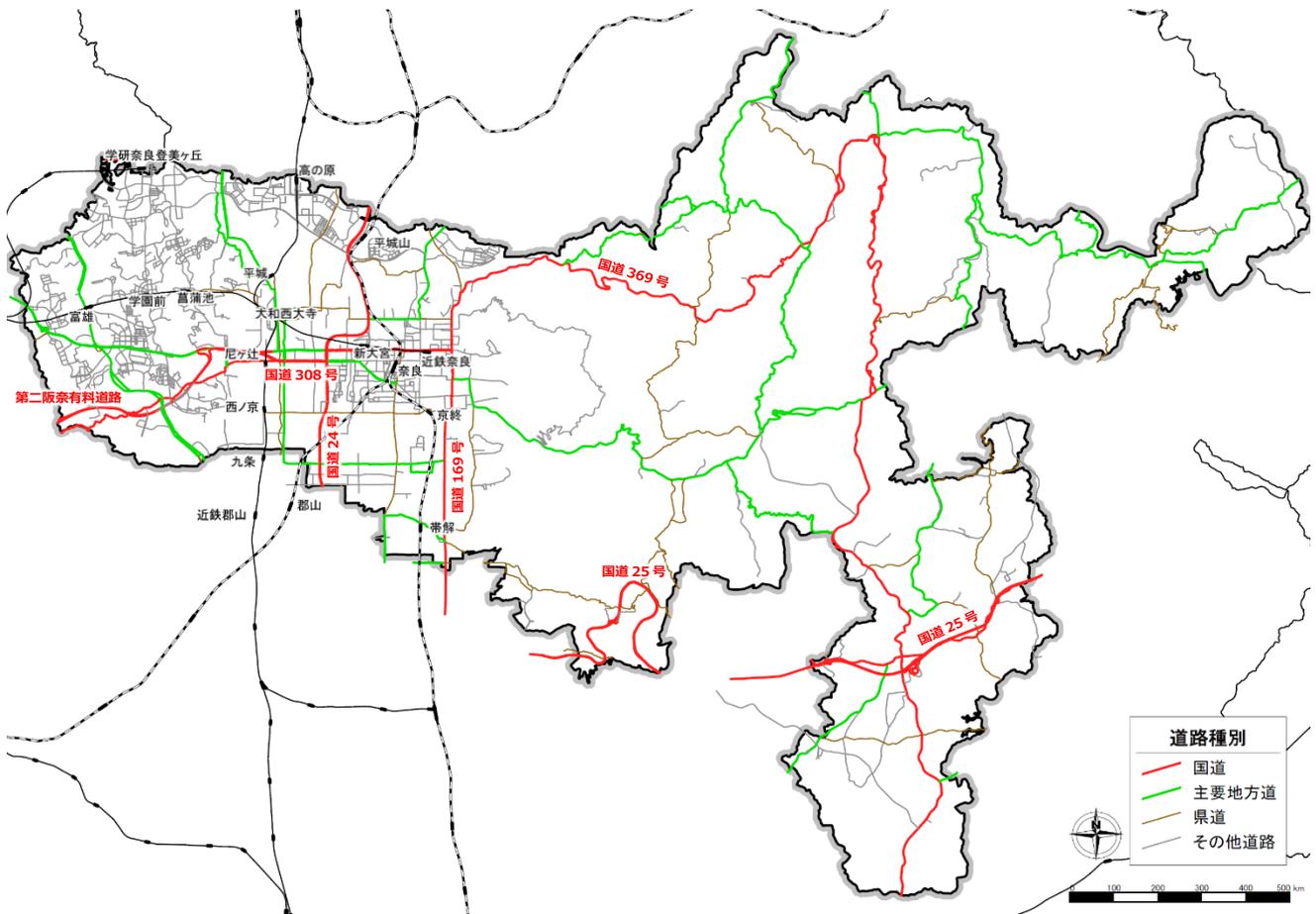
資料:平成 27 年国勢調査



1.2 道路交通状況

1.2.1 道路網

- 主要な幹線道路は国道 24 号、国道 25 号（名阪国道）、国道 169 号、国道 308 号、第二阪奈有料道路（現在は NEXCO 西日本が移管を受け、第二阪奈道路）、国道 369 号となっています。

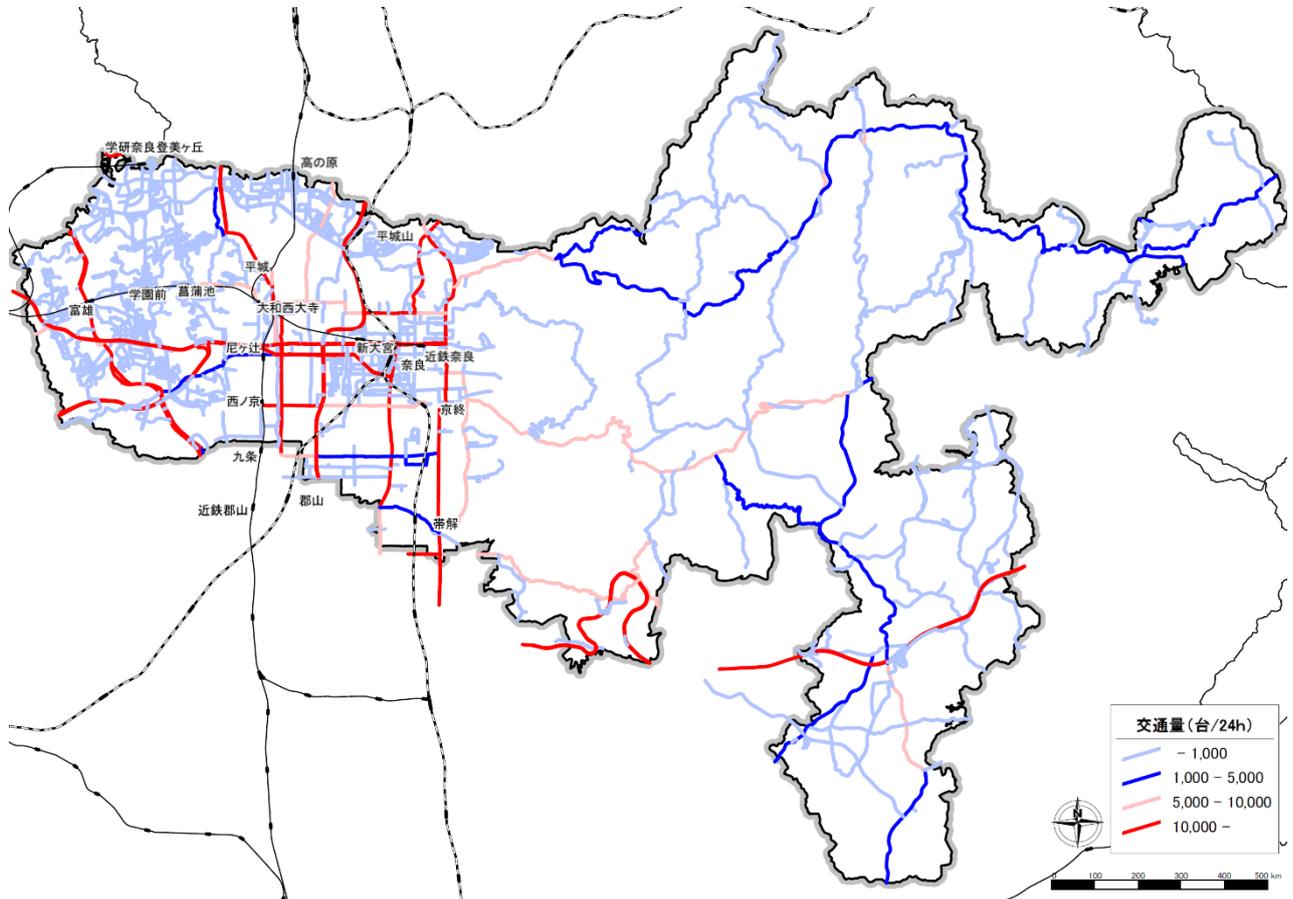


道路種別

資料：平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査

1.2.2 自動車交通量

- 国道を中心に、中部、西北部の主要な道路では 1 万台/日以上交通量となっています。
- 東部では概ね 5 千台/日未満となっています。



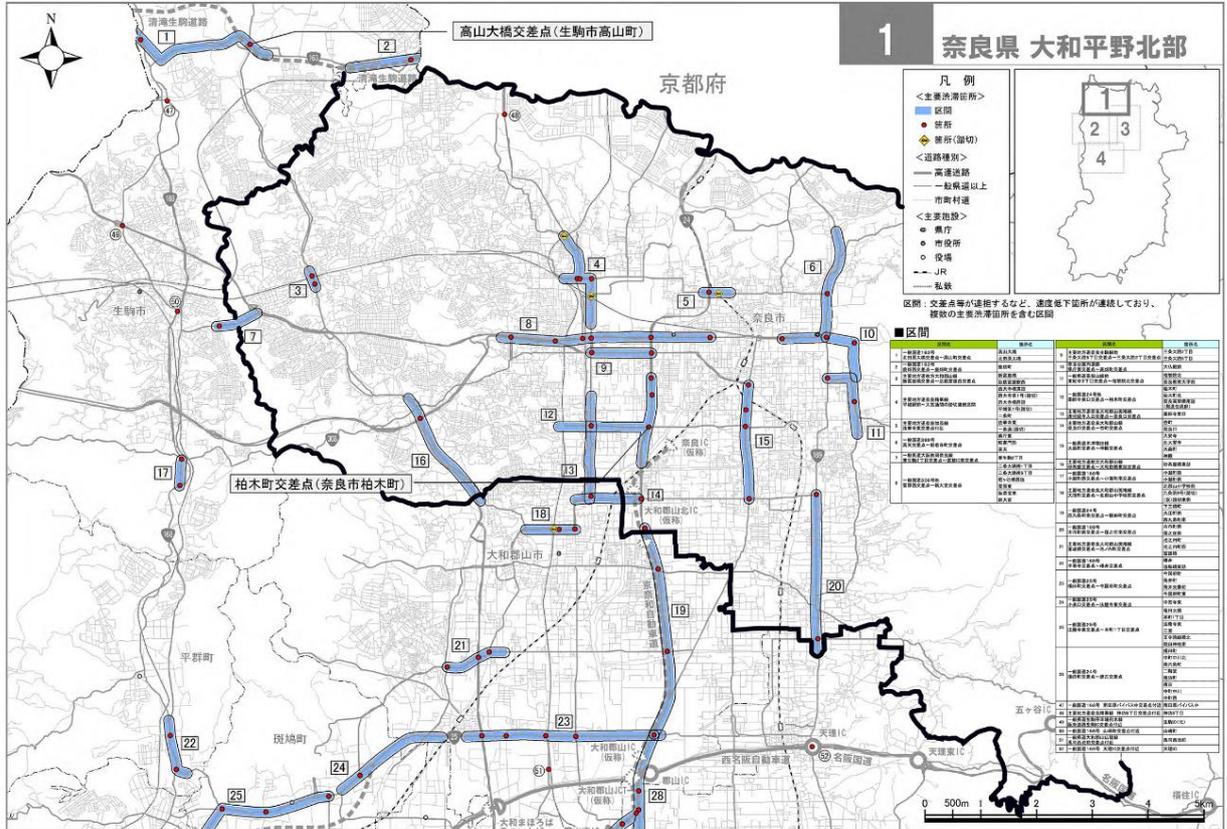
自動車交通量(平日 24 時間)

資料:平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査



1.2.3 主要渋滞箇所

- 奈良市における主要渋滞箇所は大宮通りなど、主に市の中心部の交差点・区間が指定されています。



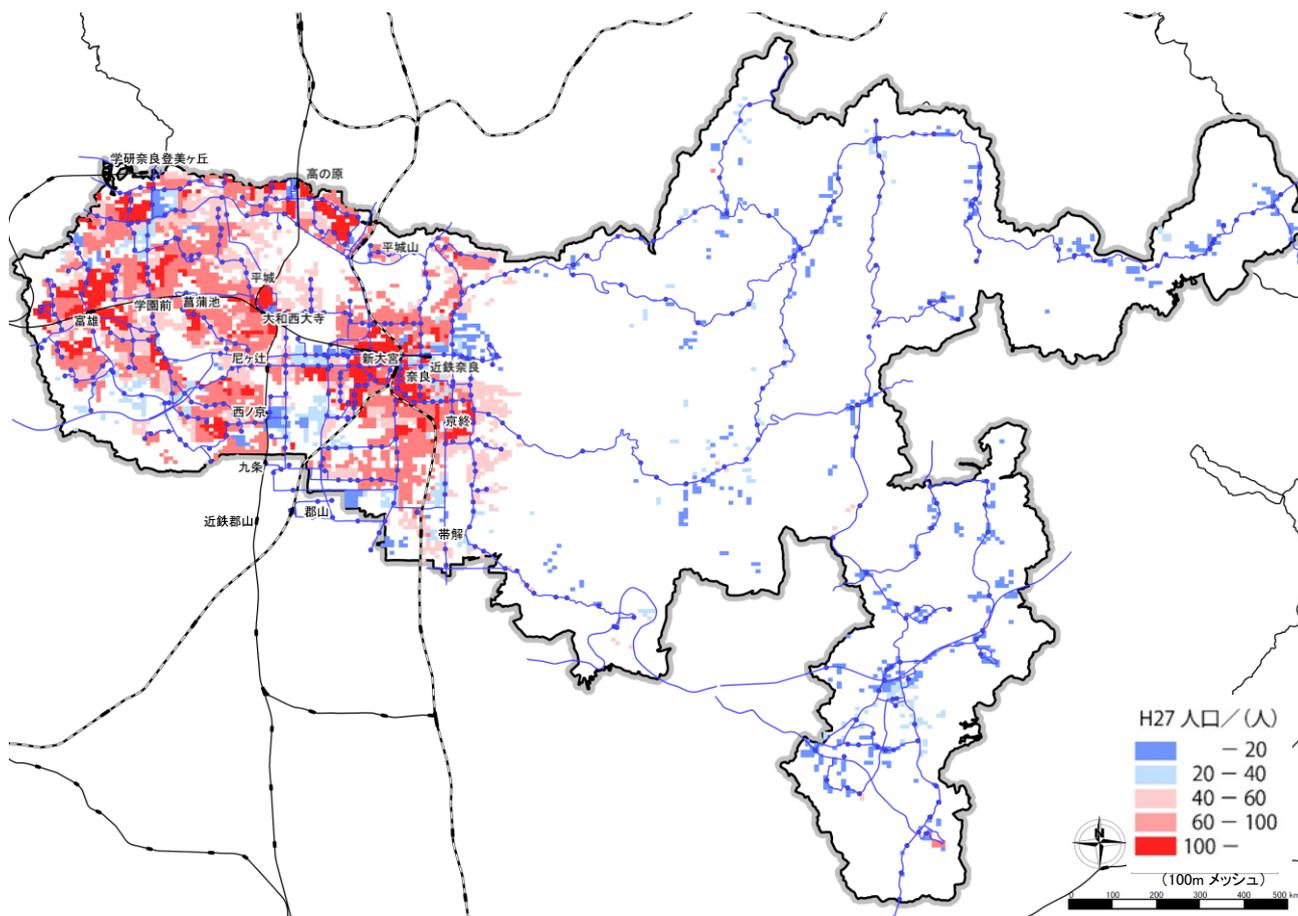
主要渋滞箇所

資料：奈良県渋滞対策協議会「地域の主要渋滞箇所」(平成 25 年 1 月)

1.3 公共交通状況

1.3.1 公共交通網

- 鉄道は、近鉄、JR が中部・西北部を運行しており、主要な鉄道駅を発着地として、路線バス（奈良交通）に加え、鉄道のない一部の地域では奈良市がコミュニティバスを運行しています。
- 東部は鉄道が存在せず、バスだけの運行となっています。



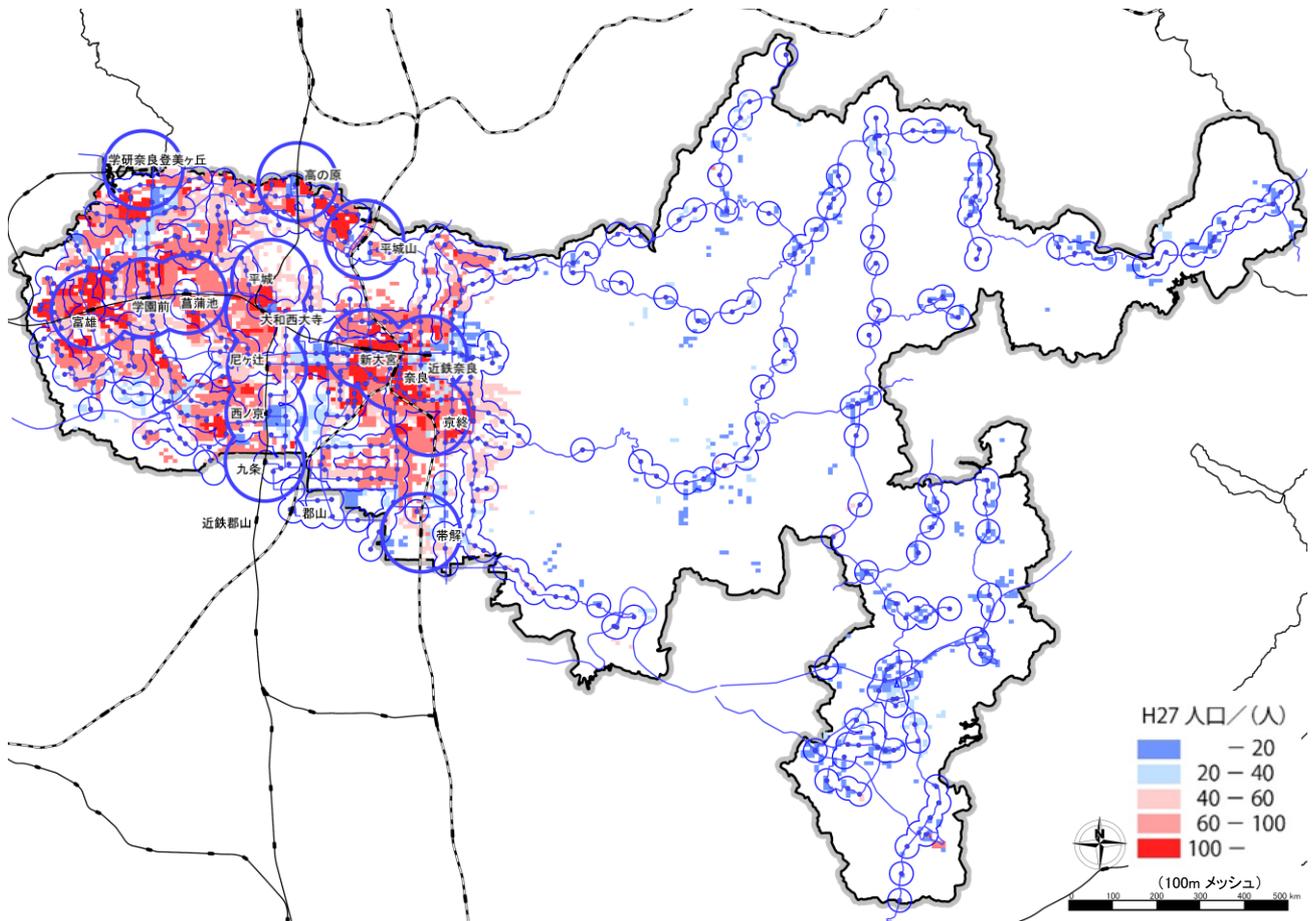
鉄道・路線バス網

資料：平成 27 年国勢調査、国土数値情報（鉄道、バスルートは 2011 年時点）



1.3.2 公共交通空白地域

- 中部、西北部では、多くの地域は鉄道駅圏もしくはバス停圏に含まれますが、公共交通空白地域となっている地域も存在します。
- 東部は鉄道が存在しないため、すべて鉄道駅圏外となりますが、バス停圏にも含まれない地域も点在しています。

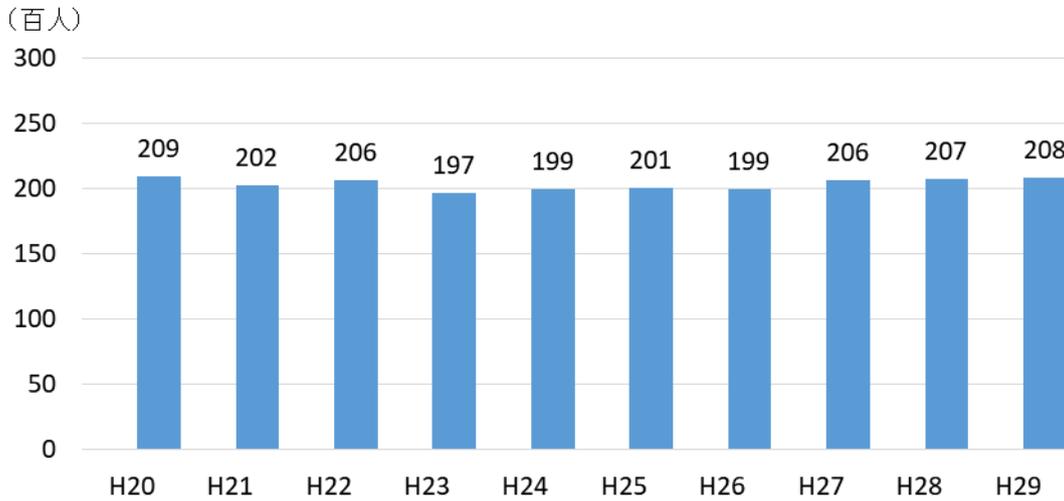


公共交通空白地域

※鉄道駅 1km、バス停 300m 圏域を表示(駅・バス停は 2019 年 6 月時点)

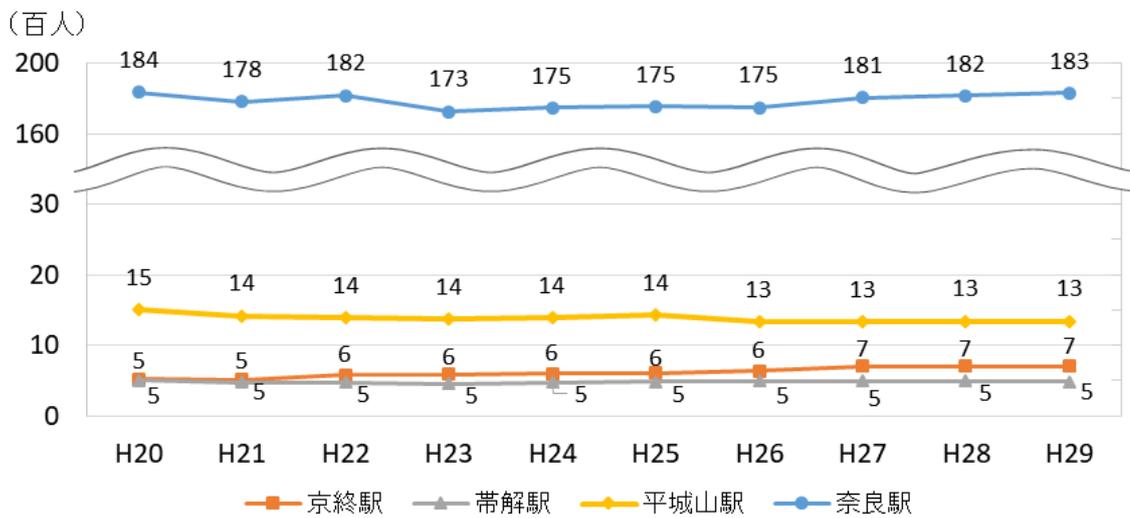
1.3.3 鉄道利用者数

- JR、近鉄ともに利用者数は減少傾向にありましたが、平成 26 年以降は増加傾向となっています。
- JR は奈良駅の利用者が最も多く、約 18,300 人/日、近鉄は近鉄奈良駅の利用者が最も多く、約 33,800 人/日となっています。



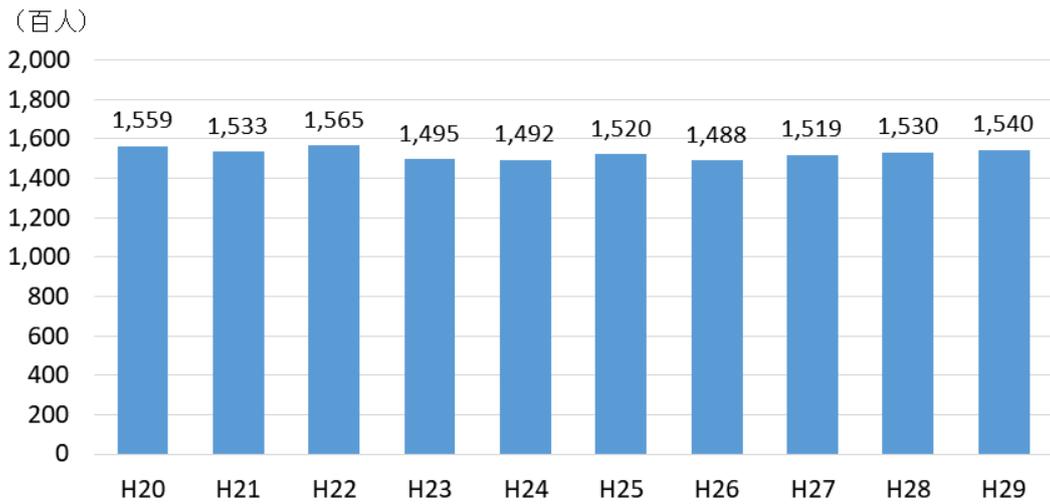
JRの市内駅の1日平均乗車人員推移

資料: 奈良市統計書「統計なら」



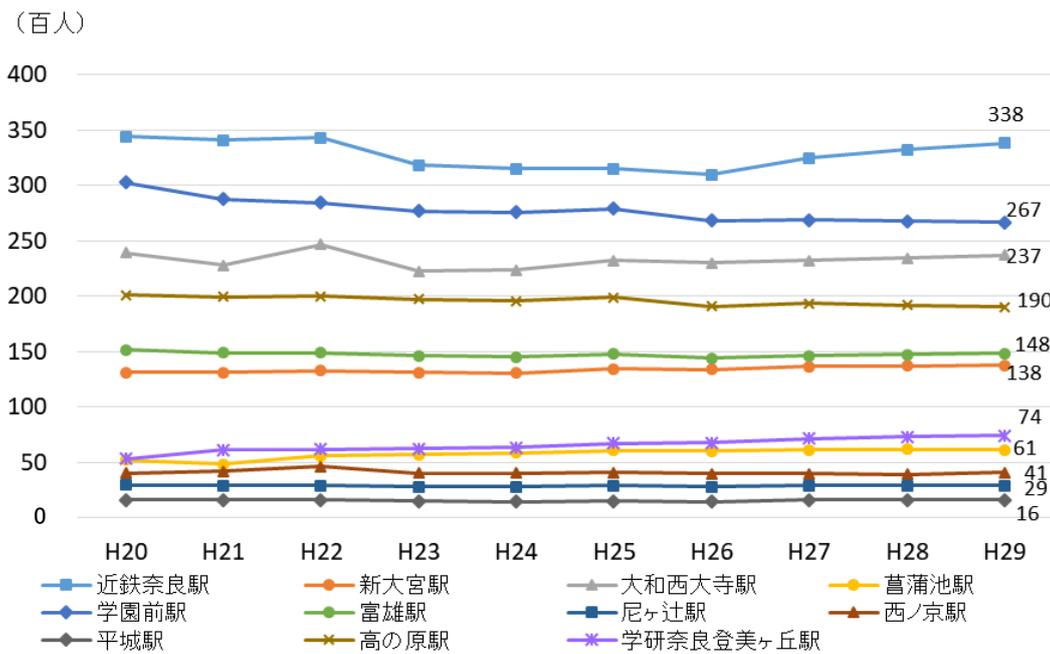
JRの駅別1日平均乗車人員推移

資料: 奈良市統計書「統計なら」



近鉄の市内駅の1日平均乗車人員推移

資料:奈良市統計書「統計なら」



近鉄の駅別1日平均乗車人員推移

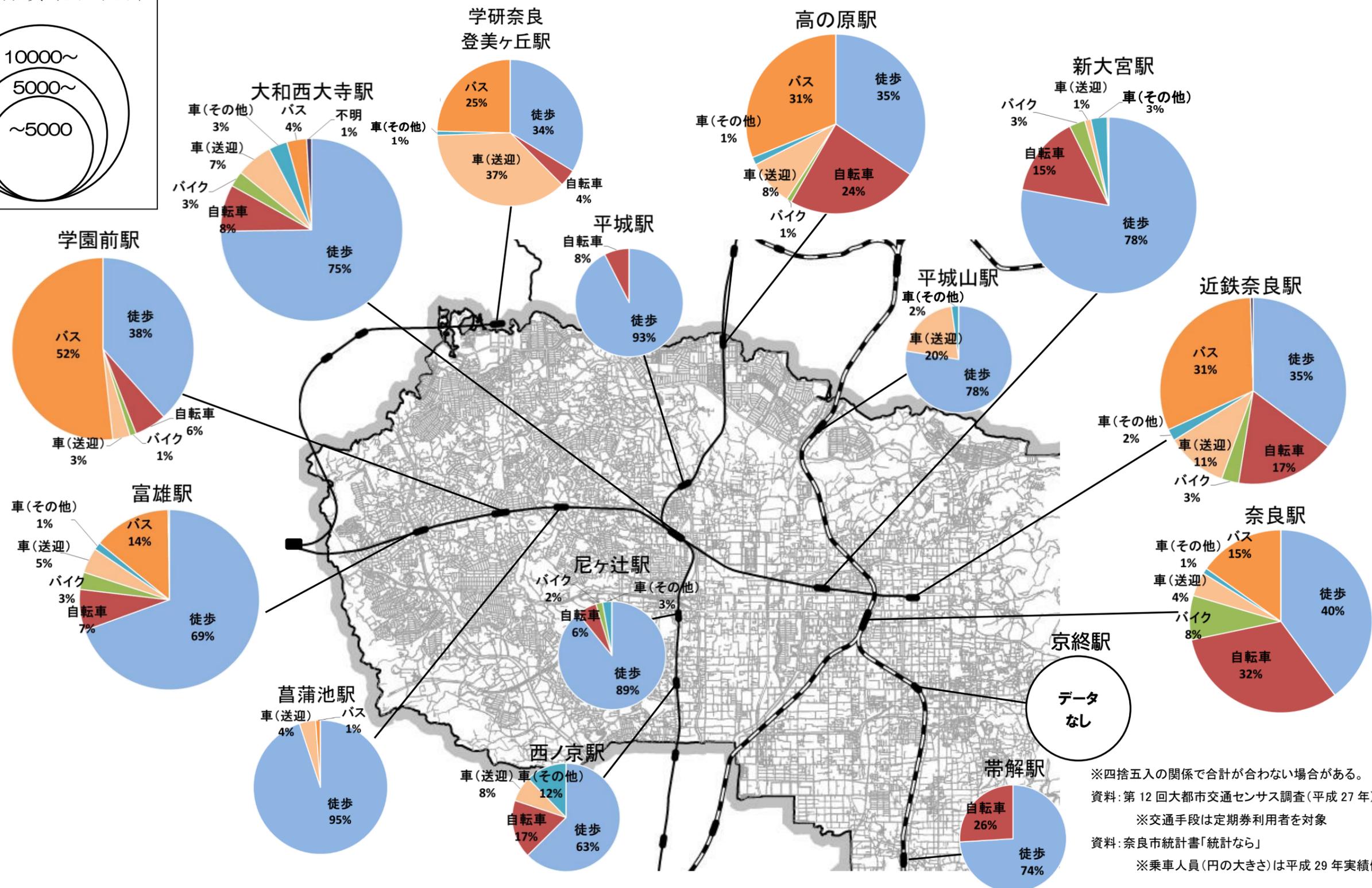
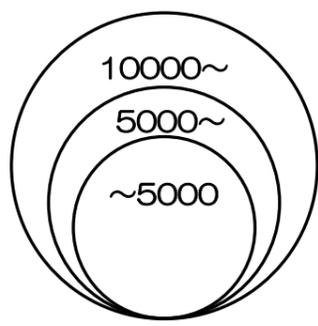
資料:奈良市統計書「統計なら」

1.3.4 鉄道駅端末交通手段

1) 自宅から駅までの交通手段

- 自宅から駅までの交通手段は、徒歩に加え、自転車、バスなど、様々な手段が利用されています。
- バスの利用割合は、学園前駅、高の原駅、近鉄奈良駅で特に高くなっています。

[凡例] 乗車人員（1日当たり）



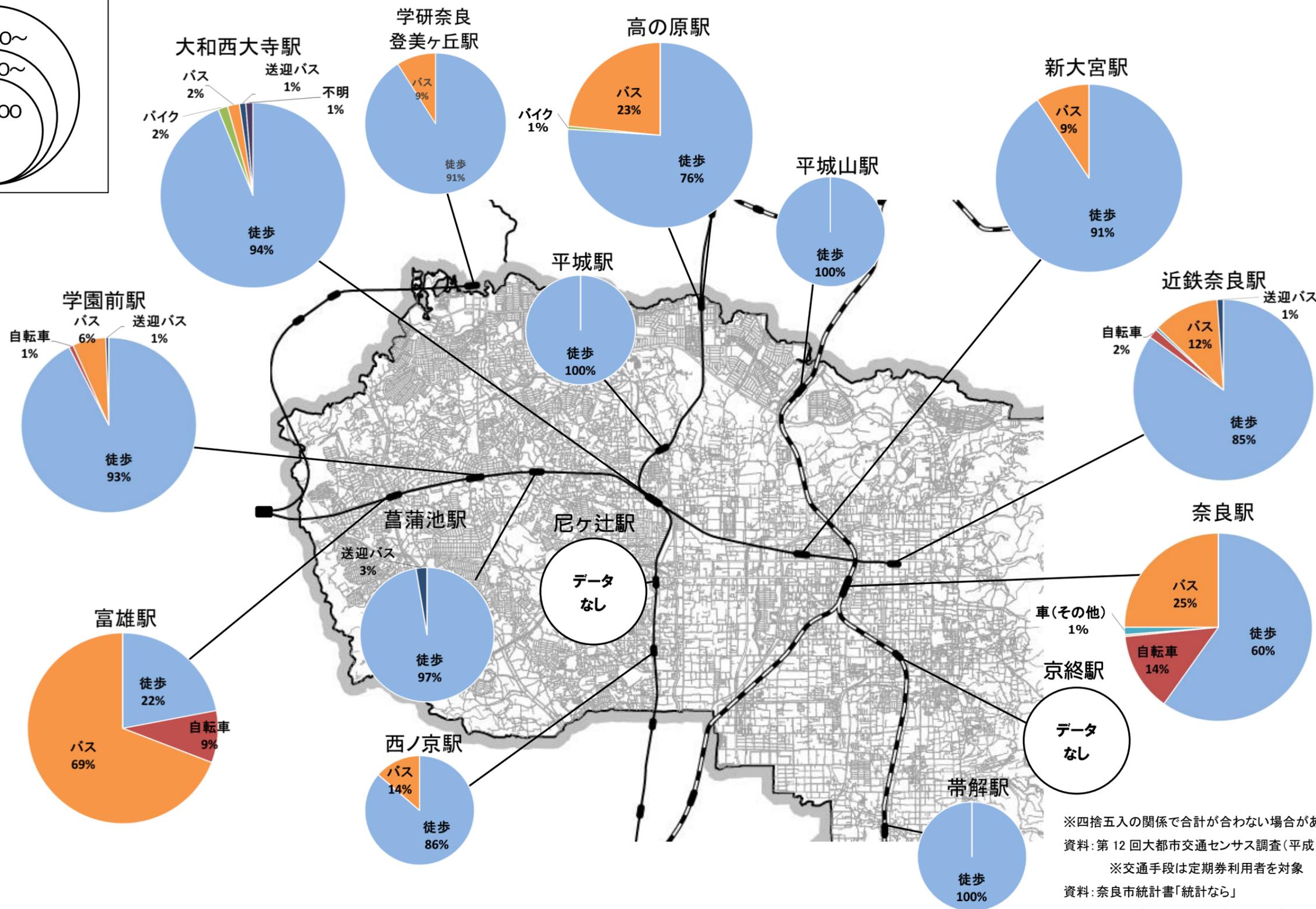
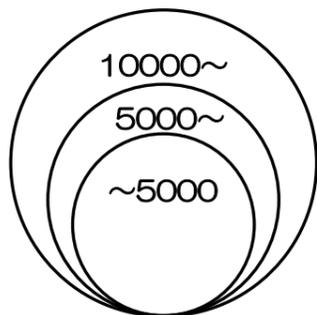
※四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。
 資料: 第12回大都市交通センサス調査(平成27年)
 ※交通手段は定期券利用者を対象
 資料: 奈良市統計書「統計なら」
 ※乗車人員(円の大きさ)は平成29年実績値



2) 駅から目的地までの交通手段

- 駅から目的地（職場、学校）までの交通手段は、全体的に徒歩の割合が高くなっています。
- バスの利用割合は、富雄駅、高の原駅、奈良駅(JR)で高くなっています。

[凡例] 乗車人員（1日当たり）

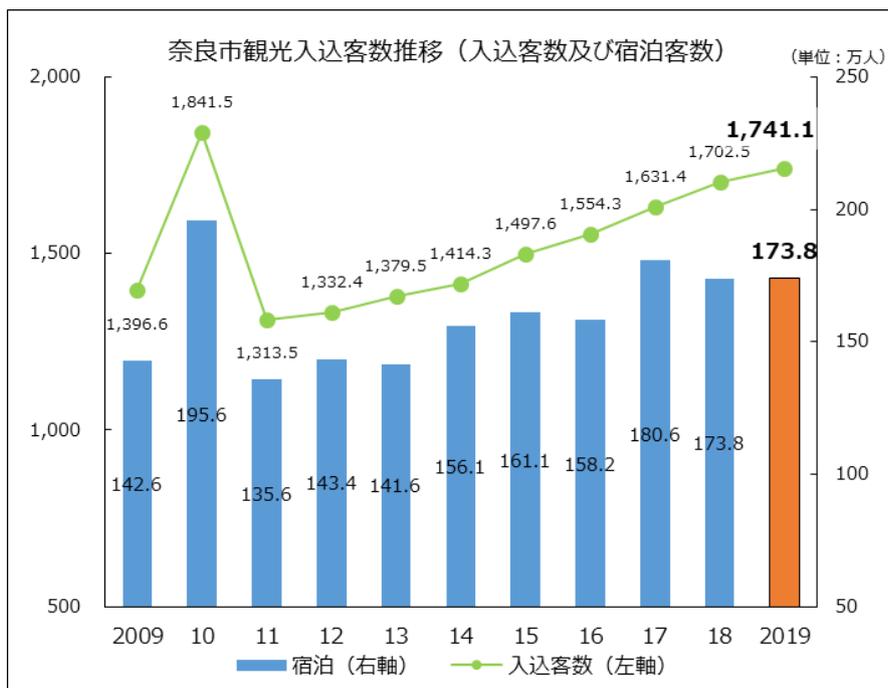


※四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。
 資料: 第 12 回大都市交通センサス調査(平成 27 年)
 ※交通手段は定期券利用者を対象
 資料: 奈良市統計書「統計なら」
 ※乗車人員(円の大きさ)は平成 29 年実績値

1.4 観光

1) 観光客の状況

- 2019年に奈良市を訪れた観光客は、1,741.1万人と、前年（1,702.5万人）に比べて38.6万人（2.3%）増加しています。
- 宿泊客数は、173.8万人で、前年（173.8万人）と同程度に推移しています。
- ただし、2020年以降は、国内外の新型コロナウイルス感染状況等の見極めが必要な状況となっています。



観光客数の推移

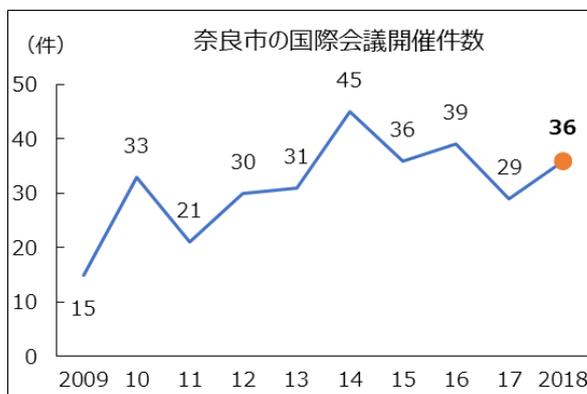
資料：奈良市観光入込客数調査報告書

2) 観光消費額等の状況

- 奈良市内の観光消費額は約1,226億円で、前年に比べて18億円の増加。
- 2018年に奈良市内で開催された国際会議は36件。



観光消費額の推移



国際会議開催の推移

資料：奈良市観光入込客数調査報告書



1.5 市民アンケート調査

平成 30 年度に実施された市民アンケートの結果と、その結果を用いて地域別交通特性を分析した結果を示します。

1.5.1 調査概要

1) 調査の内容

以下の項目について実施しました。

- ① あなたご自身のことについて
- ② 定住意向について
- ③ 人口減少・高齢化へのお考えについて
- ④ 拠点ごとのまちづくりについて
- ⑤ 日常生活での外出について
- ⑥ 公共交通の維持について

※奈良市総合交通戦略では、⑤と⑥について結果を示します。

2) 調査方法

配布方法は、郵送にて配布。回収方法は、料金受取人払郵便により回収しました。

3) 調査の対象

奈良市にお住まいの 16 歳以上の方 3,000 人を無作為抽出しました。

※東部地域については、統計的に有意なサンプル数を確保するため、自治会経由で追加配布（100 人）を行いました。

4) 調査の実施期間

平成 31 年 2 月 1 日に配布

平成 31 年 2 月 18 日投函締め切り

5) 調査の実施状況

回収数は 1,202 票、回収率は 38.8%。

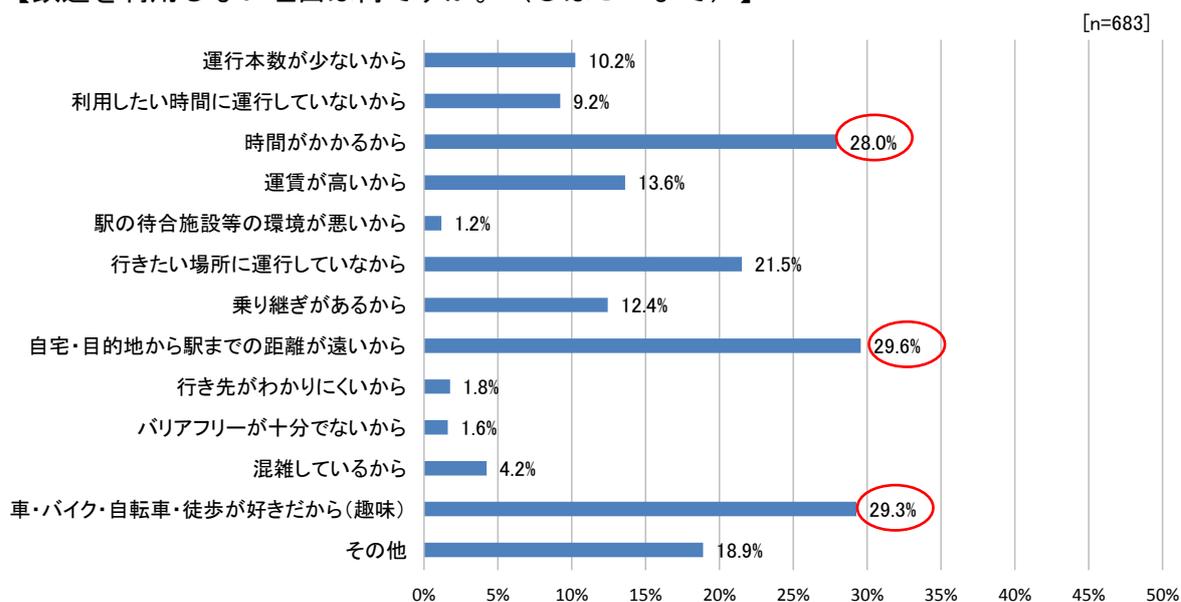
1.5.2 結果概要

1) 鉄道、バス、タクシーを利用しない理由

(1) 鉄道を利用しない理由

- 鉄道を利用しない理由は、「自宅・目的地から駅までの距離が遠いから」が29.6%で最も多く、次いで「車・バイク・自転車・徒歩が好きだから（趣味）」が29.3%、「時間がかかるから」が28.0%となっています。

【鉄道を利用しない理由は何ですか。（〇は3つまで）】



<鉄道を利用しない理由>

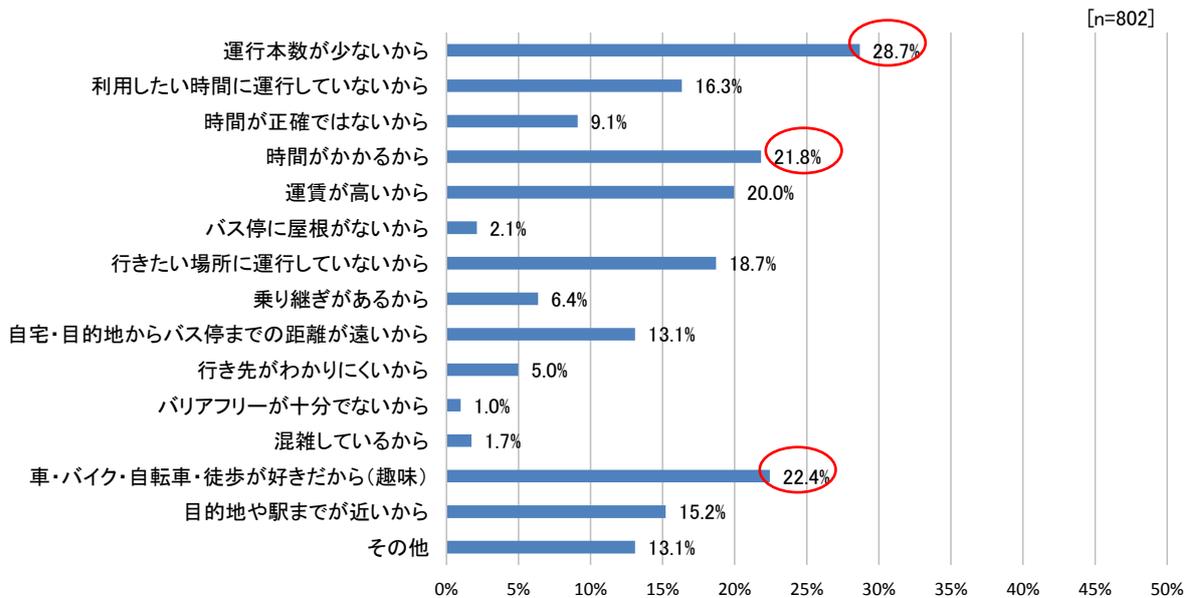
※「不明・無回答等」の回答を除いて算出している。



(2) バスを利用しない理由

- バスを利用しない理由は、「運行本数が少ないから」が28.7%で最も多く、次いで「車・バイク・自転車・徒歩が好きだから（趣味）」が22.4%、「時間がかかるから」が21.8%となっています。

【バスを利用しない理由は何ですか。（〇は3つまで）】



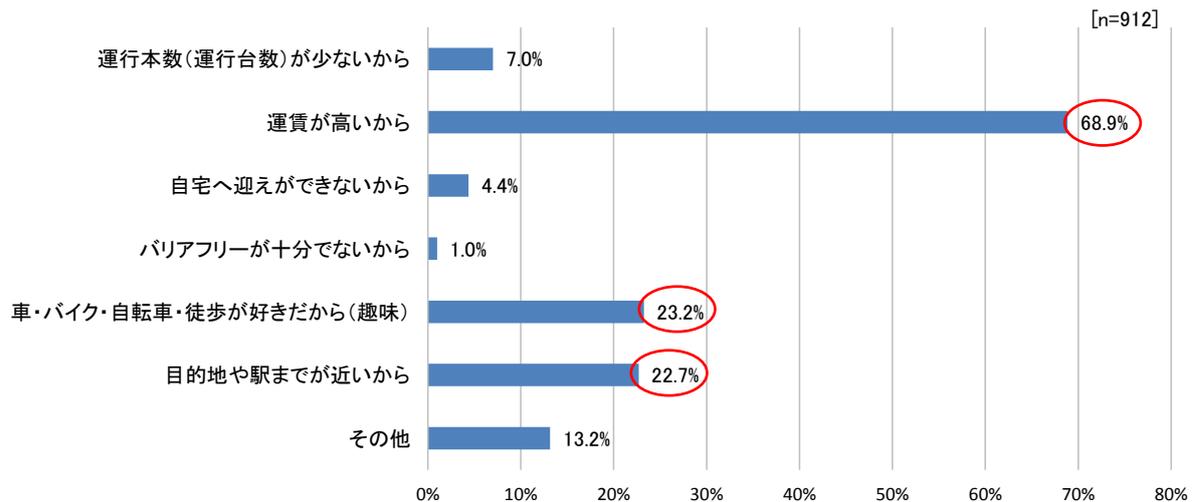
<バスを利用しない理由>

※「不明・無回答等」の回答を除いて算出している。

(3) タクシーを利用しない理由

- タクシーを利用しない理由は、「運賃が高いから」が68.9%で最も多く、次いで「車・バイク・自転車・徒歩が好きだから（趣味）」が23.2%、「目的地や駅までが近いから」が22.7%となっています。

【タクシーを利用しない理由は何ですか。（〇は3つまで）】



<タクシーを利用しない理由>

※「不明・無回答等」の回答を除いて算出しています。



2) 公共交通の維持について

※以下、四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

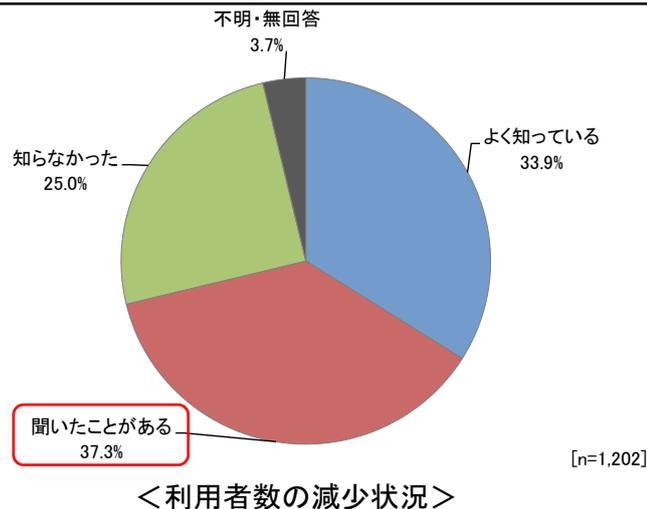
(1) バスの現状に対する認識

- 利用者数の減少状況は、「よく知っている」「聞いたことがある」を合わせると 71.2% となっていますが、継続運行のための行政負担は 55.1% となっており、認識は低くなります。

【バス路線等の置かれている状況に対する認識について、以下を読んだ後にお答えください。少子化・人口減少の進行、自家用車利用者の増加により、公共交通利用者が大きく減少し、多くのバス路線が赤字となっています。しかし、公共交通は自動車が使えない高齢者や学生等にとっては重要であり、また、現在は自家用車を運転されている方も、将来、運転が困難になったときには、公共交通が必要となります。市内の民間バスにおいては、継続運行のために、毎年、行政が多額の費用を負担または補助しています。】

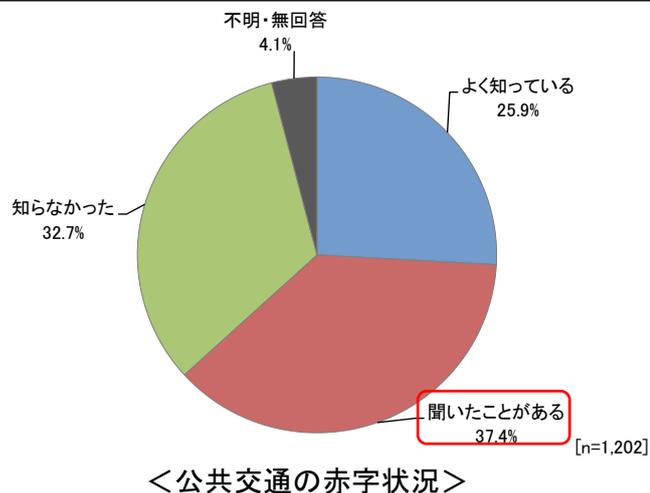
a) 利用者数の減少状況

- 利用者数の減少状況は、「聞いたことがある」が 37.3% で最も多く、次いで「よく知っている」が 33.9%、「知らなかった」が 25.0% となっています。



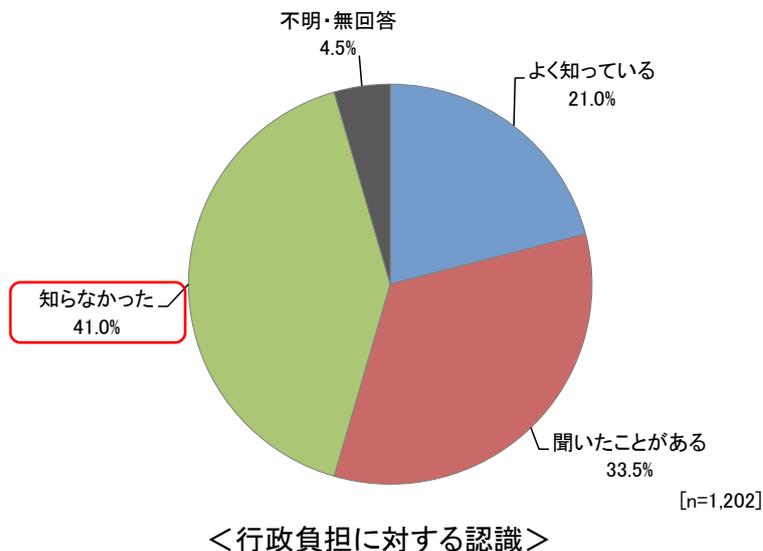
b) 公共交通の赤字状況

- 公共交通の赤字状況は、「聞いたことがある」が 37.4% で最も多く、次いで「知らなかった」が 32.7%、「よく知っている」が 25.9% となっています。



c) 行政負担に対する認識

- 行政負担に対する認識は、「知らなかった」が41.0%で最も多く、次いで「聞いたことがある」が33.5%、「よく知っている」が21.0%となっています。



(2) 今後の公共交通の運行に対する考え

- 今後の公共交通についての考えは、「現状のサービスを維持するために、利用者の負担（運賃等）を上げることがやむをえない」が31.9%で最も多く、次いで「現状のサービスを維持するために、市の負担（税金による補助等）を上げることがやむをえない」が28.0%となっています。

【このまま利用者の減少が続けば、現状のサービスを維持することは難しくなります。今後の公共交通の運行に対して、どのようにお考えですか。（○は1つ）】

